近畿・四国
◇ 大阪支社 ◇
大阪市中央区淡路町３－２－８
トーア紺第２ビル５Ｆ
☎06(6231)8036
FAX06(6231)8039

機器更新需要を開拓

関電ガスサポート ショールーム一新

宮野商事

関電ガスサポートショップのショールームオープンを機にキャンペーンを展開。都市ガスユーザーの関電ガスへの切り替え促進も図る

宮野商事（本社・京都市、宮野高彰社長）は昨年11月24日から1月29日まで、関電ガスサポートショップの「ショールームオープンキャンペーン」を展開している。

同社は昨年春、ショールームを大きく改装した。1階はＬＩＸＩＬリフォームショップとしてシステムキッチン・バス、洗面化粧台、トイレ、リビング、エクステリアなどを展示し、調理実演・体験もできるスペースにした。2階は関電ガスサポートショップのコーナーとし、ビルトインこんろやエコジョーズ、水栓など機器取り替えを提案している。

当初はコロナ禍で十分な活動ができなかったが、昨秋から情報発信を再開した。キャンペーンではガスファンヒーターや給湯器、ビルトインこんろを台数限定の特価で販売。都市ガス顧客を対象に光熱費のシミュレーションを行い、関電ガスへのスイッチングを提案している。

来場記念に関電のキャラクター「はぴ太」の粗品を進呈、12月21～25日はクリスマスの菓子セットをプレゼントした。関電ガスの新規契約にはエコバッグ、電力とガスのセット契約「なっトクパック」の場合は餃子の王将の食事券2千円分の特典を付けた。

昨秋は恒例イベントの感謝祭ができなかったため、11月24日～12月29日にチラシ中心の「感謝キャンペーン」を行った。予約制のオンライン相談や、ＬＩＮＥの「友だち登録」に対する工事費割引クーポンの進呈を実施。厳寒期に向けた断熱防音窓や「ＦＨＳユカカラ暖房」などテーマ性のあるリフォームを提案した。ウィズコロナを意識して、窓開口や換気扇取り付けなど換気リフォーム、玄関やリビングへのセカンド手洗い器設置、抗ウイルス壁紙への貼り替え、宅配ボックスやテレビドアホンなどを訴求した。

D&Dソーラーに政策投資銀と出資

大阪ガス

大阪ガス（本社・大阪市、本荘武宏社長）と日本政策投資銀行は12月16日、太陽光発電所の保有を目的とする合同会社Ｄ＆Ｄソーラーに出資した。第1号案件として同17日、同社を通じドイツBayWa r.e Solar Projects GmbHが保有する出水市の太陽光発電所、桑原城メガソーラーを取得した。

同発電所は約1万2千キロワットの設備容量で昨年4月に運転を始めた。大ガスグループは再生可能エネルギーを今後の重要なエネルギー源と位置づけ、2030年度までに国内外で100万キロワットを上回る再生エネ電源の開発、取得を目指している。現時点で同発電所を合め71万キロワットを運営している。

日本政策投資銀行は国内外の太陽光・風力発電プロジェクトなどの再生可能エネ電源に対するリスクマネー供給を通じ、50年のカーボンニュートラルに向けたグリーン成長戦略を進める。

「新年に電気一新」月内キャンペーン

びわ湖ブルーエナジー

びわ湖ブルーエナジー（本社・大津市、深野裕一社長）は今月いっぱい「新年に電気一新キャンペーン」を行っている。

月内に新規に「大阪ガスの電気」の対象料金メニューに申し込み1年以上継続の契約をすると、ＪＣＢギフトカード2千円分を進呈する。対象は▽ベースプラン全種▽家庭用ガス発電プラン▽スタイルプラン全種▽ウィズプラン全種▽ゲームでんき▽ミライトでんき。メニュー変更は対象外。

機器拡販 増改築提案に拍車

保安切り口に接点強化

松倉商事

松倉商事（本社・大和高田市、松倉眞人社長）は保安を切り口にした接点強化策で機器の拡販に注力している。生活に必要性が高いＳｉセンサーコンロやレンジフードなどの厨房機器や給湯器の提案を促進し、成果を上げる方針だ。使用開始から10年をメドに、経年機器を使用する顧客に対しピンポイントでＤＭを送付している。ガスメーターや調整器の交換、配管の修繕といった機会も引き続き提案のための接点にしていく。配送担当者と営業担当者の情報共有を密にして、こんろやエコジョーズの販売を促進する。台所の蛇口や風呂の水栓の取り替えを契機として、リフォーム提案にも拍車を掛ける。

これまでも容器設置先のチェーンをベルトに取り替えるなど、保安と顧客満足度の向上に努めてきた。松倉圭吾専務は「われわれの基本は保安。保安を切り口にすることが、お客さま宅に訪問する最も自然なきっかけ作りになると考えている。地場企業である当社と地域のお客さまの特性を考慮した堅実な営業姿勢で日々励んでいく」と力を込める。

ＬＰＷＡ通信によるリモート検針に関して、山間部や不在が多く明確に効率化が図れる需要家に対象を絞ってＩｏＴユニットを設置している。ＬＰＷＡによる検針業務の軽減については「俯瞰的にみることが重要」と話す松倉専務。設置によるメリットとデメリットを考慮して今後も導入するが、これまで検針業務を行ってきた現場の目線を最重要視する。「保安をベースとして普遍的に行える営業手法で機器の拡販に努めたい」としている。

「フニクリ・フニクラ」を歌う出演者。聴衆も振り付けを合わせて盛り上げた

クラシック音楽を身近に

油藤商事 ＳＳでミニ公演

油藤商事（本社・滋賀県豊郷町、青山裕史社長）が運営する彦根市の彦根インターＳＳで3日、ミニコンサートが開かれた。滋賀県在住の声楽家や器楽奏者5人が出演、コロナ下の文化芸術公演を支援する滋賀県の古田真由美氏とメゾプラノの井筒紗貴子氏も加わった。安田氏と青山社長は経営者の勉強会で知り合い、同ＳＳで過去数回、給油に訪れた顧客に歌をサービスしたことがある。今回の企画を聞き、正月休み中のＳＳを会場として提供した。

安田氏は「われわれ演奏家は人を集めるのが仕事だけに、コロナ禍で8カ月間活動できなかった。ＳＳは屋外で換気の心配がなく、キャノピーの反射で意外と音も悪くない。変わった光景だが、普段クラシックを聴かない方にも楽しんでいただきたい」と語った。

会場には間隔を空けていすを並べ、観客はマスク着用で感染防止に努めた。ＳＮＳで開催を告知し、ＹｏｕＴｕｂｅで生配信を行った。青山社長は「ＳＳでこんな企画はなかなかないが、新たな活用法として全国に発信したい」とあいさつした。

歩道に雪が残る寒さの中で、演奏家は電気ベストや指なし手袋を着け熱演した。丑年生まれの作曲家、ドボルザークの「新世界から」やハチャトリアンの「仮面舞踏会」などクラシックの名曲、安田氏が得意なカンツォーネ、「バビル2世」などアニメソングを次々と披露。隣家の住民もベランダから手拍子を送って楽しんだ。

自治体に働きかけ強化

兵庫県協

兵庫県ＬＰガス協会（金本州司会長）は行政に対し、避難所の災害対応力を高めるため学校体育館などにＬＰガス設備を常設化するよう働きかけを強めている。昨年11月には県会議員や県職員らを対象に研修会を開催。12月の兵庫県議会では避難所に関連する質問があった。

昨年11月16日に開いた県関係者向け研修会。今後も学校施設などへのＬＰガス空調や発電機の常設を訴求する

県協会は昨年11月16日、兵庫県庁で県協顧問の県議4人と県企画県民部、県土整備部、教育委員会の26人を対象にＬＰガス利活用研修会を開いた。研修会では機器メーカーなどを招き、導入事例などを紹介。学校体育館にＬＰガス空調、電源、給湯などを導入し、災害対応力を高めることを訴求した。協会の高東宏行業務課長はＬＰガスの特性を説明、Ｉ・Ｔ・Ｏは災害対応型バルク供給システム、アイシン精機はＧＨＰ停電対応機を紹介した。

また、12月7日に開かれた県議会第352回定例会では、自由民主党の浜田知昭議員が避難所の質の向上について質問した。浜田県議は「避難所の質を確保するには水、トイレ、エネルギーが不可欠」と強調。合併浄化槽の導入に加え兵庫県立大学姫路キャンパスの事例を挙げ、ＬＰガス災対バルク供給システムやＧＨＰを設置し、物理的な面に限らず災害関連死の防止や精神的な負担の軽減といった精神的な面でも、質の高い避難所を整備するよう訴えた。

早金孝防災監は全市町で県協会と防災協定を締結していることに触れ、災対バルク供給システムや発電機などを各自治体に紹介し「避難所の質の向上に努めたい」と答えた。

エネ利用法を考察

愛媛青年部 愛媛大クラブと

中学校で火育教室

愛媛県ＬＰガス協会青年部会（向井佑輔部会長）は昨年11月19日、27日と12月4日に松山市立西中学校で火育出張教室を実施した。中学校での火育出張教室は初めて。愛媛大学防災リーダークラブと共催し、防災についてより重点的に学習できる構成とした。

授業は1年生全6クラスを対象に5、6時間目に行った。火起こしは2人一組となり古代の発火方法を体験。従来の小学生を対象とした内容と異なり、日常生活がどのようなエネルギーに囲まれているかを考えるように工夫した。災害時を想定して複数の熱源を用いるマルチエネルギーと、単一の熱源に頼るモノエネルギーについて、学生たちに問題点を投げ掛けた。また、低圧ＬＰガス発電機、ＬＥＤ照明、屋外用煮炊釜を持ち込み、実演を通じてＬＰガスの防災特性を説明した。

共催した愛媛大防災リーダークラブは、官学民が連携し、防災スキルを持つ学生が地域に定着化することで、地域防災の牽引役として活性化と若返りを図ることを目的に結成された。学生が防災士資格を取得し、地域の防災訓練、企業への防災支援、市民防災団体の事業など各種防災活動を実践している。

中学校での火育出張教室を初開催。松山市立西中学校で実施した

向井部会長は「今後も広くＬＰガスや炎の文化を伝える一方、愛媛大学との関係を深め、地域社会にさまざまな視点で事業を展開していきたい」と述べた。

5会場で保安講習

愛媛県協

愛媛県ＬＰガス協会（高須賀秀行会長）は11～12月に県内5会場で保安講習会を開いた。新型コロナウイルス感染症対策として1事業者あたりの出席者を制限。２０４人が受講した。感染拡大が進んでいた12月3日の松山会場は中止した。

講習会は大洲（大洲市総合福祉センター）、宇和島・南宇和（愛媛県南予地方局）、八幡浜・西予（同八幡浜支局）、周桑・今治（今治地域地場産業振興センター）、四国中央・新居浜・西条（マリンパーク新居浜）で実施した。県の保安指導方針として各地方局や新居浜市消防本部は、高圧ガス保安法に基づき、危険物運搬車両について警戒標や消火器、資材工具を適切に配備するよう強調。質量販売や業務主任者の職務は規則などに準ずるよう要請した。

また、ＬＰガス業界の動向として高須賀会長がＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）時代や脱炭素化社会、コロナ禍で生まれた新しい生活様式を踏まえ、水素社会に向けた世界の動き、電力や都市ガス業界の動向を説明した。日本ＬＰガス供給機器工業会は自然災害と安全機器について説明した。

なにわ短信

▽…年末年始は遠出を控え、同じ市内に独居する母親を訪ねた。重症化リスクが高い高齢者で、最近は訪問回数を減らしていたので久しぶりである。

混雑を避け訪問にも行かなかったが、贈答用の品を見たいと母が言うので百貨店の食品売り場に出かけた。結構な人出で、高級牛肉具店の駐車場もいっぱいで、空きが出るたびに新たな車が入ってい

冷めない消費意欲

た。ステイホームが求められ、家の中で快適に過ごすための出費は惜しまないとみえる。マスコミ報道では宝ーマである。工夫次第でピンチをチャンスに変えられるはずだ。

店には長い行列ができていた。旅行や外食に支出する代わりに自宅の食材を奮発する家庭が多いようだ。大型家飾品の動きが良く、福袋の平均単価が上がったという。堅調な株価でゆとりある層の含み益は増えているはずだ。コロナ禍で経済全体は不調でも好調分野は必ずある。ＬＰガス業界にとって「住生活を快適に」は不変のテ